

病窓歳時記

— 俳句にみる病氣とその周辺 —

清水 貴久彦

病窓歳時記

— 俳句にみる病氣とその周辺 —

清水

貴久彦

清水 貴久彦（しみず きくひこ）

本名 弘之（ひろゆき）

昭和22年 京都府生まれ

昭和47年 岐阜大学医学部卒業

昭和49年 愛知県がんセンター研究所研究員（疫学部）

昭和57年 東北大学医学部助教授（公衆衛生学講座）

平成元年 岐阜大学医学部教授（公衆衛生学講座）

医学博士

専攻 公衆衛生学、がんの疫学

昭和49年 「霜林」入会 平成5年の廃刊まで会員

平成2年 「木語」入会

平成6年 「木語」新人賞受賞

「木語」同人、俳人協会会員

著書 「風はどこから—山田みづえ俳句鑑賞—」ふらんす堂

「句集 微笑」朝日新聞社

現住所：〒502-0815 岐阜市福光南町21-3

ひょうそうさいじ き 病窓歳時記

2001年11月1日 第1刷発行

2002年6月1日 第2刷発行

著者 清水 貴久彦

発行者 松尾 一

発行所 まつお出版

〒500-8415

岐阜市加納中広江町68 横山ビル

Phone 058-274-9479

郵便振替 00880-7-114873

印刷所 ニホン美術印刷株式会社

※価格はカバーに表示してあります。

※落丁本、乱丁本はお取り替えます。

※無断転載、無断複写を禁じます。

ISBN4-944168-12-8 C0095

目

次

その一	出産	6
その二	妊娠	10
その三	解剖	14
その四	眼	18
その五	耳	22
その六	齒	26
その七	胃	30
その八	心臟	34
その九	肝腎	38
その十	咯血	42
その十一	熱	46
その十二	繃帶	50
その十三	傷	54
その十四	輸血	58
その十五	精神病	62
その十六	血圧	66

その十七	薬	70
その十八	医師	74
その十九	医師と薬	78
その二十	看護婦	82
その二十一	往診	86
その二十二	癌(その一)	90
その二十三	癌(その二)	94
その二十四	病窓	98
その二十五	退院	102
「病氣と俳句」雑感		107
掲載句一覧(引用句索引)		111
あとがき		124

病窓歳時記

―俳句にみる病氣とその周辺―

清水

貴久彦

その一 出産

子を産んでやつれにけりな桜餅

日野 草城

掲出したのはお産の句。第一回目からいきなり重病が出てくるのもどうかと思
い、生まれるというおめでたい句にしました。

というより、色っぽい句です。二十代半ばでしょうか。おそらく初産だと思います。さすがに疲労の色は隠せず、幾分やつれて見えます。それでも、無事第一子を産み終えた安堵感からか、夫に優しい声をかけてもらった幸福感からか、以前にもまして美しい。艶めかしくすらあります。乳房が随分張ってきました。

乳腺はホルモンの働きによって妊娠二、三ヶ月頃より大きくなり、乳房を圧迫すれば水のような透明な液が出るようになります。これを初乳と呼びますが、だんだん灰白色から黄色味を帯びてきて、粘調になってきます。そして、産後第一日目の初乳が最も栄養価が高く、一リットルで千五百カロリーもあるそうです。約一週間後には普通の母乳になります。こちらは成乳と呼びますが、そのカロリーは初乳の半分くらいしかありません。また、初乳は免疫物質などを多く含んでおり、成乳の成分とは大きく異なっています。生まれたての赤ちゃんは、お母さんの初乳から大切なものを効率よくもらうというわけです。一見やつれてみえる若い母親ですが、父親にはない生物としての母親の働きが始まっているのです。強くなるはずです。

母乳が常に豊かさを表しているわけではありません。

狂ひても母乳は白し蜂光る

平畑 静塔

この白は痛々しい。精神に不調を来しても、ホルモンはきちんと働いて、母乳は出続けるのです。

子を産んでやつれて見える若い母親にふさわしいのは桜餅。ほのかなピンクのしっとりとした餅の肌を、桜の葉が優しく包み込んでいます。道明寺粉で桜餅を作る所もありますが、この場合は新粉で作ったものの方がよく合うように思います。

ついですが、お産は生理的現象であり、病気としては扱われておりません。帝王切開を受けたりすると保険がききますが、正常分娩には保険がききません。国民一人当たりの医療費は二十数万円で……、などというときの医療費にも含まれておりません。

最近のわが国の年間出生数は約百二十万、率にして人口千対十です。合計特殊出生率という指標がありますが、平均子供数のことで、約一、五です。一人の女子が平均何人の女子を産むかという指標（再生産率）もよく使いますが、何とこれが〇、七。つまり、一世代（約二十五年）を経るごとにわが国の人口は三十パー

セントずつ減っていくという計算です。このままいけば、五十年後には約半分になつてしまいます。

この予測は難しくありませんから、お役所の偉い人はそれに合わせて年金等の計画を立てて下さっているはずなのですが。

その二 妊娠

冷房程よし妊り人のそば豊けく

中村草田男

お産は妊娠あつてのこと、妊娠は受胎あつてのことです。英雄は、太陽が体の中に入る夢を見たというようなこれまた特別な母親が身ごもって生まれてくるようです。普通の子供は普通の妊娠の結果生まれてきます。

普通の妊娠は普通の受精の結果起こるのですが、この普通が実は大変なことなのです。女性が一生に排卵する卵子の数は、一ヶ月に一回、一年に十二回、それが三十五年間続くとして合計四百個あまりですが、一回の射精による精子の数は

数億個。大変な競争を勝ち抜いた一つの精子が卵子と一緒にになって、新しい生命が始まるというわけです。

映画やテレビドラマでは、つわりに気付いて病院に行き、「おめでとうございます。妊娠二ヶ月です」などという光景がよくあります。つわりは妊娠第六週頃に始まり、一、二ヶ月続くことが多いようです。この頃を過ぎるとひとまず安心。そして、十月十日で月満ちて出産ということになるのですが、実際に妊娠が持続する期間は、統計上二百八十日と言われています。しかも、この日数は最終月経から数えてのこと。より正確にはさらに二週間ほど減らしておかなくてはなりません。およそ二百六十五日というのが本当のところです。

それにしても、身ごもってゆったりした女性は堂々として、かつ神々しくさえあります。まわりの者が気を使って大切に扱うから一層そのような雰囲気になるのでしょうか。掲出の句など優しさ、大きさ、たくましさは漂っています。

もう少し動きをとらえた句もあります。

レースのスカートを拡がりゐて妊む

山口 誓子

ふんわりと裾を広げて座っているようでもありますが、私は身重の体をゆっくりと動かす様を思い浮かべました。一方、次の句からは病気がちな妊婦を想像してしまいます。

梅雨の夜や妊るひとの鶴折れる

田中 冬二

何か持病でもあるのでしょうか。元気な赤ちゃんを産んで欲しいものです。ところで、精子と卵子の出会いによらない不思議な妊娠があったのです。聖母マリアの懐胎です。もちろん現在の医学校では、聖霊による妊娠について講義している人はいないだろうと思います。しかし、高校の教科書で次の一句に出会って強い衝撃を受けた私には、それが産科の教科書一冊に相当するのではないかと思えます。

花杏受胎告知の翅音びび

川端 茅舎

天使が受胎を告げた相手はもちろんマリヤだと思っていました。聖書のルカ伝一の二六〜三八には確かにそう書いてあるのですが、マタイ伝一の一八〜二二によると、天使がこの重大な出来事を告げたのはヨセフだということになっています。

春昼や腑分して来したゞの顔 平畑 静塔

すべての医学生が実習として行う解剖は、系統解剖という。屍体を切り開いてあらゆる臓器、血管、神経などを確認していく作業が毎日続くと、気が滅入るのも当たり前。実際、この解剖をきっかけにして人生に悩み始め、学校に出てこなくなった同級生がいた。

しかし、日がたつにつれ、手指にしみついたホルマリンの臭いも気にならなくなり、参考書も汚れ放題。実習時間が終わると白衣だけ脱いですました顔で食堂